２０２４年度　農場実習アンケート結果

農場実習後、参加者に実習から「学んだこと」「考えの変化」「満足度」に関する１７の設問について５段階評価でアンケート調査を行った。

調査対象者

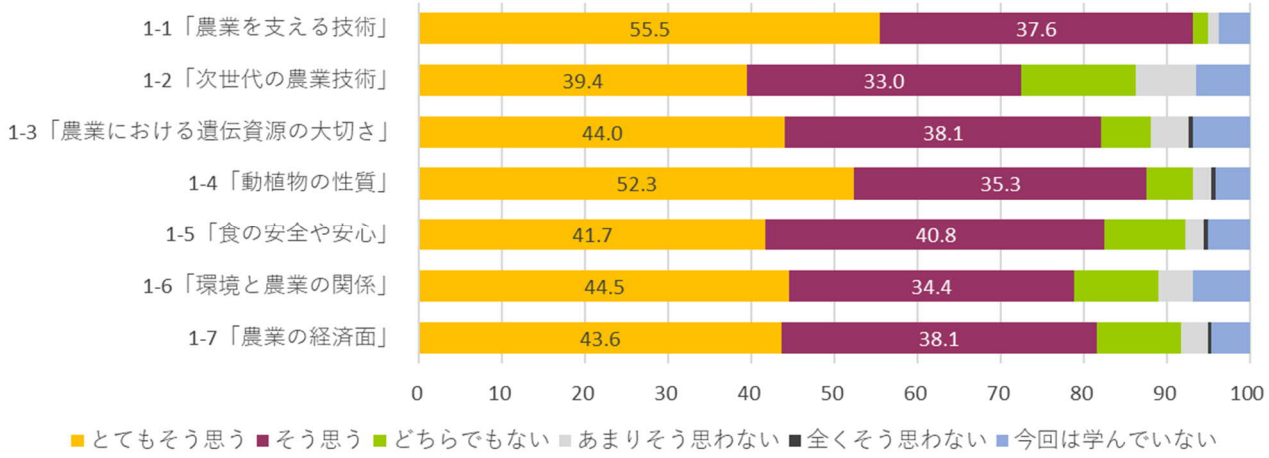
アンケートの回答者は２２９名（うち教員２名）で、そのうち、留学生は１１人、男女比はほぼ同程度であった。今年度は農学系から栄養系まで幅広い分野の学生から回答を得た。学年別に見ると、３年生の参加が多かった。

学年	n	割合%
１年生	24	10.5
２年生	38	16.6
３年生	92	40.2
４年生	22	9.6
５年生	32	14.0
６年生	9	3.9
修士１年生	1	0.4
修士２年生	7	3.1
その他	4	1.7
合計	229	

		n	割合%
所属	国内	218	95.2
	国外	11	4.8
性別	女性	118	51.5
	男性	107	46.7
	無回答	4	1.7
学部	農学系	33	14.4
	獣医・畜産系	47	20.5
	生物・環境系	105	45.9
	食品・栄養系	15	6.6

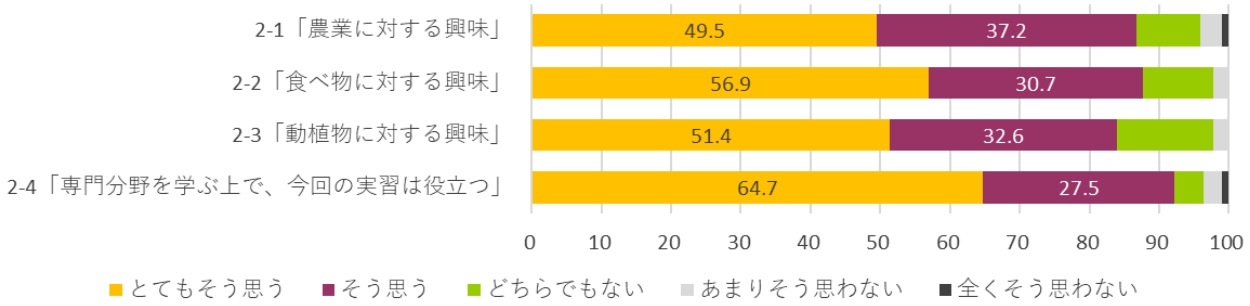
実習参加による学習効果

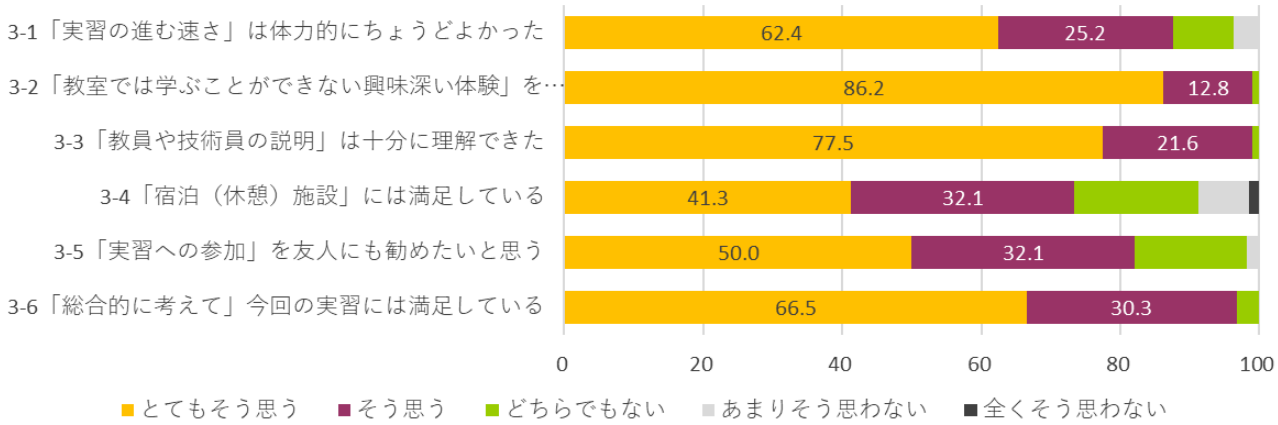
「実習参加による農業や食に対する学びや考えの変化」に関する７つの設問では、全体の約７２～９３％の学生が「とてもそう思う」「そう思う」と回答をした。実際の作業だけでなく、実習前の丁寧な説明が学生の理解を深めるうえで重要であると考えられる。実習で行っていない内容についても「今回は学んでいない」を選択せずに、「どちらでもない」「そう思わない」などと回答している学生もいるため、これがアンケートの精度を下げた印象がある。しかし、学生が何を学んだのか、学んでいないのかを実感してもらうためには、教員側もこの実習で何を教えるのか、明確しておく必要のあると考える。



実習後の考えの変化

実習後の考えの変化に関する４つの設問のうち、「農業」「食べ物」「動植物」に対する興味が湧いたと回答した学生は全体の約８３～９２％であった。８割以上の学生が、農業に対する興味が増したと感じていた。また、「専門分野を学ぶ上で、今回の実習が役立つ」の設問には、今年は理系の学生が多かったことが関係あるのか、「とてもそう思う」「そう思う」が全体の９２％となり、専門性を学ぶ上でも有意義であったと考えられる。



実習への満足度

毎年の課題である「実習の進む速さ（ペース）」については、全体の８７％と多くの学生が無理なく参加できたと回答しており、以前に比べてやや増加した。自由記述の実習の改善点で、スケジュールがハードだったとの回答もあったが、その数は少なかった。実習の時期や参加者をみて、それなりに適したペースでできたと判断できる。また「教室では学ぶことができない興味深い体験をすることができた」と「教員や技術員の説明は十分に理解できた」の満足度が９９％と非常に高く、参加した学生へ満足できる経験や学びを提供できたと考えられる。一方で、「宿泊（休憩）施設に満足している」は他の設問に比べて特に満足度が低かった。これは、施設の清潔感や虫の発生について多くの改善意見が得られることに関連している。「総合的な満足度」では９６％の学生が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しており、実習に対する評価が非常に高かったと考えられる。